

人権情報誌  
vol. 30  
2008.5

あい・ゆー-KYOTO

輝きピープル——千原ジュニアさん お笑い芸人  
 僕は、早く部屋から出たかった  
 ～あの日々があったから、今がある～

特集「世界人権宣言」60周年記念特集

知ろう！学ぼう！広めよう！「世界人権宣言」

△京にはばたく▽京都、おやじの会「連絡会副会長 三木幸彦さん

「OK企業」表彰企業(株)ウエタ本社 代表取締役社長 岡村充泰さん

千原ジュニアさんの  
直筆サイン入り色紙を  
プレゼント!



## 輝きピープル

僕は、早く部屋から  
出たかった

～あの日々があったから、今がある～

## 千原ジュニアさん [お笑い芸人]

お笑いコンビ「千原兄弟」として、舞台やテレビなど様々な場で活躍中の千原ジュニアさん。実は、14歳で引きこもり生活を始めました。そこには、だれも理解し得ない、でも、千原ジュニアさんなりのこだわりや葛藤、そして、そこから一歩踏み出すためのきっかけ探しが続いて行われていたのです。「引きこもり」という言葉さえまだなかった当時を振り返りながら、千原ジュニアさんに語っていただきました。

### ■ 中学校入学は「やってもうたあ！」から始まった

引きこもりのきっかけは、地元の私立中学校に入学したことからです。僕は、それまで小学校では、いわゆる「あんな子と遊んだらあかん」と近所の親たちから言われるタイプでした。そんな見方にちょっと反発心もあったので、進学校として一目置かれるその中学校に入学したら、そういう人たちを見返してやれるという思いから、まじめに勉強して受験したら合格したんです。

でも、僕にとっては入ることがゴールで、そこからスタートするという発想が全くありませんでした。とにかく合格するという事に必死だったんです。

入学して、周りの同級生たちを見回したとき、「うわぁ、やってもうたなあ、えらいとこ、来てしもたなあ」とそこで気付きました。僕の考えや想いを共有できる同級生たちはいないとすぐに感じたんです。

僕は、小さい頃から「人と同じことをしてたまるか」という意識をいつも持っていました。やることなすこと、人と違うと言われることに、一番居心地よく感じている子どもだったんです。更に、4歳上の兄・靖史やその同級生たちの影響から、他の同級生に比べて、何でも見聞きするのが早く、「早く自立できる“何か”を見つけなアカン」という脅迫観念みたいなものもありました。親の言うとおり勉

強をして、それから将来、何で生きていくかを探していく普通の子どものプロセスを、僕は踏まないとずっと感じていました。それを踏んでいく子が、周りの同級生たちだと気付いて、ここに僕の居場所はないと思ったんです。とにかく小さい頃から周囲とのギャップがいつもあり、何か離れてものごとを見る傾向もある、そんな自分の居場所はこの学校にはないと感じたのです。

### ■ 戦うリングが見つからない?!

そんな違和感の中で、ある日、僕は自分の部屋に鍵をかけて引きこもりました。でもそれは、楽なことではなく、当時の僕にとっては、学校に行くこと

も、引きこもることも、しんどいことでした。

そんな自分を見て親はもうショックだったでしょうねえ。近所からいつもあれこれ言われていた我が子が、地元の進学校に入ったのに、部屋に引きこもって一日中パジャマを着て過ごすんですから。親には、僕の抱いた違和感など



は全然理解されませんし、それがまた歯がゆくて、壁に穴をあけたり、部屋の壁に絵を描いたりめちゃくちゃなことをしました。僕は、気持ちの伝え方が他の人と違っていただけかもしれません。

でも本心は、一日でも早く部屋を出たかったです。格闘家がジムでずっと練習していて、早く試合がしたいのに、戦うリングがどこにあるか分からなくてしんどいという感じでした。

引きこもっていて楽なときは何も考えていない寝てる時だけ。部屋を出たいのに、何をきっかけに、どうしたらいいのか、いつまでこんな生活が続くのか、自分でも分からず、考えることが苦痛でした。でも「考えないとあかん」という気持ちもずっとあったので、その狭間でしんどかったです。

そんな中で、おばあちゃんとの旅行は、僕の心に大きな変化を与えてくれました。小さいとき、一緒に暮らしていたこともあり、おばあちゃんとは波長が合いました。いつも“つま先”で立っている感じが、おばあちゃんと一緒のときは“かかと”をつけて両足で立っている感じがしたんです。おばあちゃんは、どこにでもいる明るく面白い人で、ゲートボールがめっちゃうまいんです。いつも自然体で、背伸びをせずに居させてくれる。おばあちゃんとの旅行は、僕の引きこもりの状態を見かねた母親が、おばあちゃんに頼んだことでしたが、旅行をしたことで、引きこもっていた僕が、少し外を向くようになりました。

そして部屋を出る一番のきっかけは、先に家を出て、お笑いの世界に入っていた兄の靖史が、相方に僕を呼んだことです。もしあの日、他に兄の相方が見つかったら今、僕はこの世界にいません。

### ■ もう少しだけ、待ってください

そうして僕は、このお笑いの世界に15歳で入りました。今、ドラマの仕事で14歳、15歳の子どもたちと共演しているのですが、ほんまに子どもです。僕の親は、よくこんな子どもの僕を1人で家から出してくれたなと感心しています。15歳の子どもをよく吉本興業に行かせてくれたなと思います。

僕の最終学歴は中卒ですが、何かをしたい、見つけたいと思っていた中卒で、何もやりたくない、学校にも行きたくない、勉強もしたくない中卒とは違うと思っています。引きこもりに、何かを見つけない、何かをしたい、でもそれが何か分かん人と、単に学校が嫌、人としゃべるのが嫌、面倒臭いとい

う人とは違うと思うし、今は色んなケースがあると思います。

ただ、今だから言えるのは、引きこもりは自分も含めて、贅沢病です。もし、4人家族で四畳半に暮らしていたら、どこに引きこもるんですか(笑)。場所があって、食べさせてもらえる環境が整っているからできることです。僕はいつも「ごはんが食べられるのは誰のおかげや、部屋の電気代は誰のおかげや」という気持ちがずっとありました。何とかせんとアカン、でもどうしたらいいのか分からない。そして、いつも心の中で親に「もう少しだけ、待ってください、すんません」と叫んでいました。

人それぞれですが、僕にはあの1年があったから今があると言えます。そのために絶対に通るべき道だったと。そして色んな人のおかげで今があるとも思っています。今後、やりたいことは山ほどありますが、引きこもっている人たちが、「おもしろいなあ」と笑って、思わず(部屋から)出るようなこともできたらいいですね。

### PROFILE 千原ジュニアさん

お笑い芸人。1974年京都府福知山市生まれ。1989年、千原せいじとお笑いコンビ「千原兄弟」を結成。舞台、テレビなどで活躍。主な著書に「千原ジュニアの題と解」(太田出版)、「少年」、「答え」(共にリトルモア)がある。3月30日には「14歳」に続く自叙伝「3月30日」(講談社)が出版された。

### プレゼント 千原ジュニアさんの直筆サイン入り色紙をプレゼント!

千原ジュニアさんの直筆サインが書かれた色紙を抽選で2名の方にプレゼントします。ハガキ又はメールに郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号と「あい・ゆー-KYOTO Vol.30号」へのご意見・感想を書いて5月31日(当日消印有効)までに下記へお送りください。なお、抽選の結果は発送をもって代えさせていただきます。

【ハガキ送付先】  
〒604-8571(住所記入不要) 京都市人権文化推進課  
「あい・ゆー-KYOTO vol.30 色紙プレゼント」係  
【メールアドレス】  
jinken@city.kyoto.jp



# 知ろう! 学ぼう! 広めよう! 「世界人権宣言」

今年は、国際連合で「世界人権宣言」が採択されて、60年目の年に当たります。この機会に、既に「世界人権宣言」を御存知の方も、そうでない方も、改めて「世界人権宣言」について考えてみませんか。

## 「世界人権宣言」60周年記念

### 「世界人権宣言」は、どうしてつくられたの?



20世紀、人類は、二度にわたる世界大戦をはじめとして、様々な戦争や紛争を経験しました。特に、第二次世界大戦においては、多くの尊い命が失われたばかりではなく、様々な人権侵害が行われました。

このような悲惨な戦争を二度と繰り返さないこと、そして、平和な世界をつくることを目指して、1945年に国際連合(以下「国連」という)が設立されました。

そして、国連は、戦争のない平和な世界をつくるためには、世界中の全ての人の人権が守られる必要があると考え、1948年12月10日に「世界人権宣言」を採択しました。

### 「世界人権宣言」では、どんなことが決められているの?

「世界人権宣言」は、前文と30条の条文からなり、全ての人は、人間として尊重され、自由かつ平等であり、差別されてはならないと定めています。

また、「世界人権宣言」で定められた具体的な権利には、

- ・ だれもが自由に考え行動できる「自由権」
- ・ だれもが自分の国の政治に参加できる「参政権」
- ・ だれもが人間らしく生きることができる「社会権」

があります。

更に、「世界人権宣言」では、**全ての人**が**他人の権利と自由を尊重しなければならない**とも定めています。



### 「世界人権宣言」に基づいてどんな取組が行われているの?

#### 国連の取組

毎年、「世界人権宣言」の採択された**12月10日**を「**人権デー**」とし、全ての国連加盟国に、これを記念する行事を実施するよう呼び掛けています。

1995年から2004年までの10年間を「**人権教育のための国連10年**」とし、各国において人権に関する教育啓発活動に積極的に取り組むよう要請しました。その結果、各国では、人権に関する国内行動計画の策定や人権センターの設立などの取組が進められました。

「人権教育のための国連10年」終了後の2005年からは、「**人権教育のための世界プログラム**」を策定し、人権という普遍的文化を構築するための様々な取組を進めています。

#### 京都市の取組

「世界人権宣言」が12月10日に採択されたことに基づき、毎年**12月**を「**人権月間**」と位置づけ、市内において、様々な人権啓発の取組を実施しています。

1999年に「**人権教育のための国連10年京都市行動計画**」を策定し、人権尊重の考え方が日常生活に根付いていくための様々な取組を進めてきました。

2004年末の「人権教育のための国連10年京都市行動計画」終了後には、新たに「**京都市人権文化推進計画**」を策定し、日々の暮らしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築を目指して、様々な取組を進めています。

### みなさんにできること

まずは、「世界人権宣言」について、知ってください。そして、それを学び、みなさんの周りの人たちに、「世界人権宣言」に書かれている大切な内容を広めてください。

そうすることによって、たくさんの方が、自分を含め、全ての人がある権利を持っているのかを知ることができ、自分自身の人権が侵害されていることに気付かない人や他の人の人権を侵害する人がいなくなり、日々の暮らしのなかに人権を大切に、尊重し合う習慣が根付いた世界が築かれていくのではないのでしょうか。



【参考】「人権について考える」  
「人権について知りましょう」  
「やさしいことばで書かれた世界人権宣言」  
いずれも財団法人 人権教育啓発推進センター発行

# 父親が堂々と子育てに参加できる社会を!

～京都「おやじの会」連絡会がOK企業を認定～

京都「おやじの会」連絡会 副会長 **三木 幸彦さん** 「OK企業」表彰企業 (株)ウエダ本社 代表取締役社長 **岡村 充泰さん**

「父親不在」と言われるようになってから長い年月がたちました。しかし、子育ては家庭・地域で行うもの。考えてみれば父親が子育てに参加できない、そんな社会の有りようは、子ども達を健やかに育てていくうえで、大きな課題です。そんな時代だからこそ、父親たちが立ち上がりました。京都「おやじの会」連絡会が、昨年スタートさせた「OK企業」認定制度。この制度を通じて家庭・地域で子育てを支援する社会づくりを進めることを目指しています。

## テレ屋の父親を子育ての場に



三木幸彦さん

「わが子の父親から、時に怖がられる地域のおやじへ!」という宣言の下、京都「おやじの会」連絡会が発足したのは、平成15年のことでした。

どうしても母親任せになりがちな子育てへの反省と、子どもと学ぶ楽しさから、活動は、瞬間に京都市全域に広がり、現在、市内の幼稚園、小・中学校、総合支援学校など175校・園で3,500人の「地域のおやじたち」が活躍しています。

「父親というのは、テレ屋ですから、子育てにかかわりたいと思っても、簡単には手を挙げない。でも、土俵をきちんと作って『さあ、どうぞ』といえれば出てきて、けっこうみんながんばるんです」と、ご自身を振り返りながら、おやじの特性を分析するのは同会副会長の三木幸彦さん。

昨年7月、京都市左京区の「みやこめっせ」で開かれた「おやじEXPO」では、各校のおやじの会のメンバーが体験ブースを設けて、火の起こし方や、よく飛ぶ紙飛行機の作り方を子どもたちに伝授。情報交換の一方で、競争心も燃やしたといえます。

そんなおやじの会が、2年前から企画していたのが「O(おやじの)K(子育て参加に理解がある)企業」認定制度でした。おやじの会の活動を進めるためには、父親たちの多くが属する企業の協力が不可欠だからです。

昨年、京都市内の企業13,000社に「学校行事等に父親として参加しやすい職場づくりを目指しているか」、「独自に父親の子育て参加を目的とした行事や事業を行っているか」などについてのアンケートを実施。その回答を基に選考を行い、176社をOK企業として認定しました。そしてそ



おやじEXPO風景

の中から、特におやじたちの胸に響く活動を行っていた5社がOK企業として表彰されました。

## 有給休暇を1時間単位で

その中の1社(株)ウエダ本社(京都市下京区)の取組は、「勤務時間内の学校行事への参加、病院への送り迎えなどを支援するために、有給休暇を1時間単位で取得できる制度」の導入です。



岡村充泰さん

同社の岡村充泰社長は「実は、この制度は父親の育児支援というより、中小企業としての必要に迫られ考え出したアイデアなんです」と話されます。

国の制度は、ワーク・ライフ・バランスという考え方にしても大企業の視点に立ったものです。1人の人間が業務を兼務する中小企業では、遅くまで残って仕事をしている社員が、子どもの入学式であれ、親の介護であれ、家庭の事情で休むことをいつも快く認めてくれるとは限りません。同時に、日本では「家庭を重視するなら出世はあきらめる」的な風潮もいまだに根強くあります。

「社長が有休を認めても、周りへの気兼ねは残る。かといって休まなければ家のことが気になって仕事に集中できない。でもこの制度を使えば、気になることを先に済ませて、仕事に集中できる。当社の本業は、いきいきと仕事ができる環境を提案することなんですが、だれもが堂々と有休を取れば、仕事へのモチベーションもグッと上がると思います」と岡村社長。

子どもを育てることは、何事にも変えがたい喜びであり、楽しみです。その中で親も成長していきます。地域で常に子どもたちを温かく見守りながら、時には厳しく注意する「おやじ力」こそ、今、社会に求められているものではないでしょうか。

そのほか、優れた「OK企業」として表彰された企業(五十音順)

- ・石川商店(北区)
- ・(株)シンコー住研(下京区)
- ・(株)津乃吉(東山区)
- ・(株)堀場製作所(南区)



表彰式風景

お問合せ先  
京都「おやじの会」事務局  
京都市教育委員会生涯学習部家庭地域教育支援担当  
TEL 251-0456 FAX 222-2061  
ホームページ <http://www.kyoto-oyaji.jp>



# 「アイヌの人々」について 考えてみよう!

だれもが自由で、尊厳と権利が平等にあることを「人権」といいます。みなさん、四コマまんがを通して人権について考えてみませんか?

現在、アイヌの人々の多くは、北海道に住んでおり、「アイヌ語」という独自の言語や文化を伝承しています。かつて、アイヌの人々は、東北地方、北海道、サハリン(樺太)、千島列島に及ぶ広い範囲で生活していましたが、特に明治以降において、北海道の開拓が進む中で、アイヌ語の使用をはじめとした伝統的な生活習慣を制限され、社会や文化に打撃を受けると同時に、様々な差別を受けることとなりました。

また、アイヌの人々は、伝統的な生活を支えてきた狩猟や漁労を制限・禁止されたことにより、社会的にも経済的にも恵まれない環境に置かれる人々が多くなりました。

このようなアイヌの人々の状態を改善するため、北海道においては、アイヌの人々の生活環境の改善、住宅の整備、教育の充実の取組など、「経済的・社会的地位の向上を図るための総合的な施策の推進」が進められました。

また、国においては、平成9年に「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」が制定され、アイヌの人々の文化と伝統などを啓発していくための取組が進められています。

このような取組の成果もあり、アイヌの人々の生活状況は改善されつつあるものの、現在もなお、格差や差別が存在しています。

アイヌの人々についての問題は、北海道に暮らす人々だけの問題ではなく、日本に暮らす全ての人が考えなくてはならない問題ではないでしょうか。



イラスト: 坂上加奈子  
京都精華大学 マンガ文化研究所

5月は憲法月間です。

**講演会** **中京福祉まつり 人権のつどい** **参加無料**

日時 5月25日(日) 13:00~14:00  
 会場 元教業小学校  
 定員 150名  
 講師 廣中邦充氏(西居院やんちゃ和尚)  
 テーマ 「心と心のきずな」  
 【お問合せ】中京区役所まちづくり推進課 ☎812-2426

**映画上映会** **憲法月間 映画のつどい** **参加無料**

日時 5月15日(木) 14:30~18:30  
 会場 同志社大学寒梅館ハーディーホール  
 映画 映画「手紙」の上映 日本語字幕有り  
 【お問合せ】上京区役所まちづくり推進課 ☎441-5040

**講演会** **人権を考えるつどい** **参加無料**

日時 5月28日(水) 14:00~15:30  
 会場 池坊学園こころホール  
 定員 150名  
 出演 ESPERANZA(エスペランザ)  
 テーマ 夢をあきらめないで  
 ~難病をのりこえて~  
 【お問合せ】下京区役所まちづくり推進課 ☎371-7170

**パレード** **憲法月間人権啓発パレード**

日時 5月9日(金) 16:00~  
 コース 船岡山公園~キタオオジタウン  
 集合 船岡山公園  
 定員 300名(参加希望者は15時40分までに船岡山公園広場に集合)  
 【お問合せ】北区役所まちづくり推進課 ☎432-1208

**講演会** **憲法月間のつどい** **参加無料** **手話通訳有 5/9までに要申込**

~こころのふれあいみんなの広場~  
 日時 5月17日(土) 13:30~15:00  
 会場 ホテル京都エミナス ダイアモンドホール  
 定員 200名  
 講師 木藤潮香氏(いのちのハードル「1リットルの涙」母の手記著者)  
 テーマ ひとつしかない命 ~1リットルの涙~  
 【お問合せ】洛西支所まちづくり推進課 ☎332-9318

**展示と貸出** **憲法月間関連図書の展示と貸出**

京都市図書館では、「憲法月間」に当たり、特設コーナーを設けて、様々な人権に関する図書の展示と貸出を行い、広く市民の皆様にご利用いただき、人権に関する理解を深めていただきたいと思います。  
 期間 5月1日~31日(終日)  
 会場 京都市図書館全館  
 【お問合せ】京都市中央図書館 ☎802-3133

**映画&講演会** **ウイングスセミナー シネマ&トーク**

映画「心理学者原口鶴子の青春」の上映と泉悦子監督トークショー  
 日時 6月7日(土) 14:00~16:30  
 会場 京都市男女共同参画センター(ウイングス京都)  
 定員 240名  
 参加費 前売券500円 当日券800円  
 内容 ・映画「心理学者原口鶴子の青春」の上映  
 ・泉悦子(「心理学者原口鶴子の青春」監督)トークショー  
 【お問合せ】京都市男女共同参画センター内(財)京都市女性協会事業企画課 ☎212-8013

**お知らせ** **冊子「わかりやすい印刷物の作り方」を発行しました。**

情報は単に発信するだけでなく、どのような状況にある方でも可能な限り公平に情報を受け取ることができるようになることが大切です。本冊子ではユニバーサルデザインの視点から、印刷物を作る上での色使いや文字の大きさ等について、具体的な工夫例を挙げて紹介しています。  
 配布先 区役所・支所、市立図書館、教育機関、本市主催イベント会場等  
 【お問合せ】保健福祉総務課 ☎222-3366

**公募** **平成20年度 市民活動サポート事業募集!**

京都市女性協会は、市民とのパートナーシップの下、男女共同参画社会の実現を目指すための課題解決に向けた積極的な企画を持つ、京都市内を本拠地として活動しているNPOやグループに対し、助成を行います。  
 対象となる事業の実施期間  
 平成20年7月1日~平成21年3月31日に完了する事業  
 【お問合せ】京都市男女共同参画センター内(財)京都市女性協会事業企画課 ☎212-8013

**お知らせ** **ユニバーサルデザインアドバイザーを派遣します!** **随時受付中!**

様々な分野や地域においてユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、実践しようとする企業、団体等に対し、京都市がユニバーサルデザインの有識者や実践者を派遣し、必要な助言や支援を行います。  
 【お問合せ】保健福祉総務課 ☎222-3366

本誌は年4回(5月8月,11月2月)発行します。区役所・支所のまちづくり推進課 市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は、返信用切手(120円分)を同封のうえ、京都市人権文化推進課までお申し込みください。

同じです あなたとわたしの 大切さ



発行日 平成20年5月1日  
 発行 京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課  
 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上  
 上本能寺前町488番地  
 ☎075(222)3381  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-2-3-0-0.html>  
 京都市印刷物第203006号